

「春いっぱいの大学構内(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大学構内には、さまざまな種類の野草がある。ほとんどは雑草だ。雑草というのは、特に役に立たない野草のことだ。しかし、その雑草が、子どもたちにとっては、すばらしい「学びの道具」になる。



そんな雑草の中でも一番の人気は、やはりタンポポだ。花よりも「綿毛」のほうが人気がある。吹いて飛ばして遊ぶのだ。



タンポポの綿毛が飛んだ一瞬。私も子どもの頃、夢中になって遊んだ。タンポポにとっては、種子を拡散してくれる子どもは、有難い存在だろう。祖母に「タンポポの綿毛が耳に入ると、耳が聞こえなくなる。」と注意されたことがある。いまだに、その真偽がわからない。たぶん迷信だろう。

大学構内は、時々自動車を通るほかは、自然観察には安全な場所である。決められた範囲で、好きな場所に行って、好きな草花を観察できる。一人が何か珍しいものを見つけると、すぐにその周りに人だかりができるのが面白い。



どうやら、シロバナタンポポを見つけたようだ。関西では普通に見られるが、東京ではあまり見ない。はじめて見た子どももいて、もう大騒ぎ。誰ともなく「採っちゃだめだよ！」という声があがるのも面白い。



綿毛を吹こうとした女の子が「キャー！」と叫んで、またもや人だかり。よく見たら、綿毛の中にカメムシがいる。開く前からとまっていたのだろうか？